

令和5年度 鹿ノ台小学校学校評価総括

1. 鹿ノ台小学校教育目標

自ら学ぶ意欲と豊かな心を持ち、たくましく生きる子どもを育てる

2. 今年度の重点課題(グランドデザイン参照)

(1)規範意識の向上

(2)主体的・対話的で深い学びの推進

3. 評価のためのアンケート

具体的な目標設定と評価指標を定めて、自己評価と外部アンケートを実施。

□ 児童アンケート 7月4日 12月4日 実施

□ 保護者アンケート 11月25日～12月2日 実施

□ 教員自己評価 7月20日 2月1日 実施

実施後、学校だより等で結果を公表し、分析を行った。

4. 成果と課題及び改善策等について

(1)規範意識の向上に関わる評価項目

①決まりを守る気持ちを育てる

②あいさつ、人を思いやる言動と自己有用感の向上

【成果】

- 「廊下歩行やルール」の遵守については、85%程度の児童ができたと回答。児童は「服装などの決まりを守っている」と回答した保護者は90%以上だった。「善悪の判断」「正直・誠実」「規則の尊重」について、「道徳の授業でしっかり考えることができた」と回答した児童と教員が9割を超えた。保護者アンケートでは、児童が「周りの大人からよいところを認められている」と感じていると回答している割合が86%に、「以前の自分より頑張っている」「学校生活は楽しい」などで90%以上が肯定的な回答をしており、児童の自己有用感や自己肯定感に係る項目で高ポイントとなっている。
- あいさつと廊下歩行については、児童と教員が共通した目的意識をもち、児童会の取組と教員の指導の両輪で規範意識の向上のため取り組むことができた（あいさつりレーや代表委員会での話し合いなど）。
- 学校だよりや全校朝会等を通して、児童や保護者に直接呼びかけ、一丸となって取り組む雰囲気作りができた。
- 職員室への来室時のあいさつや児童による放送に対し、職員室の教員が積極的に声をかけたりほめたりすることが増え、児童の意欲を高めた。たくさんの教員が褒めることで子どもの自己有用感も高まっている。

【課題】

- 教員がいない場面では十分守れていないことが多い。雨の日の過ごし方が特に良くない。掃除は一生懸命に取り組んではいるが、もっと余計なおしゃべりが多い。もっと静かに落ち着いて掃除に取り組ませたい。
- 集団行動からはみ出す児童や集団の規律を守れない児童が少しいる。
- あいさつをする子としない子の差があること、来客に対してのあいさつを含め、児童自らが進んであいさつがまだまだ十分できていないことは課題である。

【来年度に向けて】

- ◆ 子どもの自主、自立（自律）の心を育てたいという思いから、道徳の授業で考えさせること、日常の生活を振り返る時間をとり行動を見つめさせる取組、互いに声をかけあうようにさせる指導、「～するな」の否定から入る言葉がけを避け、褒めて認めるような肯定的な言葉がけなど、教員は様々な取組と試みを行った。これらの取組を他の職員とも共有し、広げ浸透させたい。
- ◆ 学校だよりや全校朝会、児童会からの呼びかけなどを通して、児童と教員、保護者が規範意識の向上を共通の目標として取り組む雰囲気づくりを引き続き行う。
- ◆ あいさつだけでなく、集会や発表会など児童が表現をする場を増やし職員全体で褒め認める機会を多くすることで児童の自己有用感や自己肯定感を高めていく。委員会や縦割り班活動をその大事な機会として位置付けたい。

③障害や外国籍、LGBTQ等の多様性の正しい理解のための授業や取組、職員研修

【成果】

- 教員アンケートでは「できた・概ね」合わせ79%（前期）から96%（後期）に増え、手ごたえを感じている教員が多くなった。2学期以降に力を入れて取り組んだ。
- LGBTQについては外部講師を招聘して啓発授業を3,6年で実施して2年目。道徳教材や絵本等を使いその他の学年でも啓発授業に取り組んでいる。
- 通級指導については、夏季休業中を活用し教職員を対象に研修を実施し、担当教員が他市の先進校を見学し学んだ。児童対象に通級担当教員による啓発授業を行った。

【課題と対策】

- ◆ LGBTQや発達障害などの様々な特性を持つ児童、登校渋りなど不登校傾向の児童が増えつつある。研修と啓発とともに不登校ルームなどの児童の居場所づくりなど体制づくりを進める（場所と人の確保が課題）。

④児童の問題行動への対応

学級の荒れに対してどう取り組むのかといった学校の体制や心構えに係る評価である。

【成果と課題】

- 教員自己評価では、後期では90%の教員が安心して対応できたと回答し、前期（83%）よりも増えた。

- 児童連絡会を定期的に関き学校全体で対応すべき事案を共有し指導に当たる体制が定着している。個別の事案について適宜ケース会議を開き、市教委やSSW、SCその他専門家と連携をとって進めた。指導が難しい学級や児童への対応と欠員や病休教員の補充として、いわゆる「空き時間」の教員に積極的に対応してもらうことができた。

【課題】

- 今年度は、教員定数の1つが欠員のまま4月がスタートした。しかも、1学期、2学期、3学期と体調不良等が理由で退職や病休をする教員が相次いだため、慢性的な人手不足の状態が続き、支援が必要な学級や児童へのフォローアップ体制が取りづらく十分とはいかなかった。

【課題と対策】

- ◆ 学級の状況を担任ひとりが抱え込まず、学年、職員全体が把握しやすい環境づくりが必要である。
- ◆ 気づき見守りアプリなどが効果的に活用できていないため、活用することで学級の状況や課題を話題にし、共有しやすいようにしていく。
- ◆ 県の専科加配等を活用し専科授業を増やすことで、複数の教員が児童と関わる体制を整える。空き時間の増やすことで、空き時間を利用してトラブルを抱えた児童や学級への補助、支援を行う。

(2)主体的・対話的で深い学びの推進

⑤児童同士の意見交流を取り入れた授業づくり

【成果と課題】

- 児童同士の意見交流を活発化させることを意識して取り組むことができた。
- 講師を招聘して行った研究授業と研究討議が2回、講師は呼ばなかったが5回の公開授業を行った。
- 授業中に意見交流をする機会があったと回答した児童は、9割近い。
「授業を通して、新しい気づきや考えの広がりなどがあった」と回答した児童は88%。
- どんな姿が見られると「主体的」に「対話的」に学んでいると言えるのか。「考えが深まったり、広まったりした」と児童が感じていると9割近く評価しているが、具体的にどんな子どもの姿が見られるとき深まった、広がったと判断できるのか、学校として明確にはなっていない。
- 日々の授業の中でICTを活用し工夫して意見交流を通して学び合う機会が増えてきたが、児童の主体性や学びの深まりにどうつないでいくかが課題である。

【対策】

- ◆ 意見交流の場は増えたが、児童の主体性や学びの広がりや深まりにどうつなげるか、どんな子どもの姿なのか、少しでも共通理解して研究を進められるようにする。研究の柱に据え取り組んでいく。

⑥児童が自分の考えを書く、表現したり説明したりする力の育成

【成果と課題】

- 「概ねできた」と合わせるといずれも8割ほどになるなど、自分の考えを表現したり説明したりする力を付けてきた。
- ・ 後期の児童アンケートにおいて「考えを上手く伝えられた」伝えることが好きだ」の回答は目標の割合には到達せず、5割に届かなかった。教員の自己評価では場の設定はできたがうまくできた、伝えることが好きだと感じさせる点では十分ではないと感じる（17%と7%）。
- ・ 評価の判断が児童や教員の印象によるところが多くなり、客観的でない。

【課題への対策】

- ◆ 今年度も取り組んだ総合的な学習の時間や生活科でのキャリア教育、郷土学習など、児童が主体となって協働して取り組む学習を一層充実させていく。
- ◆ 学級や学年の取組だけでなく、委員会や縦割り班活動の機会を積極的に活用し、人前で話したり人と関わったりする場を教職員全体で指導、支援し児童の自己有用感を高めていく。
- ◆ 児童や教員の印象に頼らない、表現力がついているとする客観的な指標を検討し教員が共有できるよう努めたい。

⑦学校運営協議会や地域学校協働本部の意見を取り入れながら、地域と学校が相互に連携し、協働して行う様々な活動を実施

【成果と課題】

- 家庭科ボランティア、まちたんけんなどの授業支援のほか、昔遊びなど地域の方の支援を得ることができた。親子で星を見る会を復活させることができたのは、先端技術大学院大学学生サークルの、囲碁クラブや音楽クラブでは地域の専門知識や技能を持つ方の力を借りて運営ができた。
- 郷土学習やキャリア教育などの本校独自で地域人材を活用した特別授業を各学年1つ以上実施できた。

【来年度に向けて】

- ◆ すべての学年でキャリア教育または郷土学習を実施することができたが、各学年の学習のつながりがもっと明確になるようにしたい。学年ごとの取組を今年度限りのものとせず、継続し、本校の特色として定着させたい。また、それぞれの取組の系統性やつながりが意識できるようにしていくことが大切である。

⑧教職員のICT活用能力を高める。

【成果と課題】

- 学年に得意な教員を入れることでICTの活用は増えた。
- ・ ICTの活用について、教員の力量や学年による差や違いが見られる。
- 今年度はICT支援員と協力してICTモラルの授業をほとんどの学年で実施することができた。6年生で1学期、スマホのSNSの利用を巡ってトラブルが発生したがタブレット端末の活用に関わって、大きなトラブルは起こっていない。
- ・ 育友会と連携した取組ができなかった。

【課題への対策】

- ◆ 来年度も学年にICTに教員をできるだけ配置し、互いに学び合う教師集団を目指す。
- ◆ 家庭や放課後の活用において、問題が発生しやすいため、育友会と問題意識を共有し取り組んでいきたい。

5. 今年度を振り返って

「鹿小らしさ」の考察と充実をめざす

今年度、コロナによる行動制限が解除され、行事の見直しをする中で、「鹿小らしさ」について職員と議論したことは非常に有意義であった。今年度確認した主な「鹿小らしさ」（特色）を次の2観点で整理しておく。今後も、「鹿小らしさ」について、議論を続け教職員で共有して充実を目指していきたい。

(1)学校行事について

- ・運動会における応援団の取組（縦のつながりと憧れをつくる）
- ・集会行事と縦割り活動（自己有用感の醸成、縦と横のつながりをつくる）
- ・学習参観での音楽発表や学習成果発表（表現の場の設定と集団で取り組む心地よさをつくる）

(2)授業の取組について

- ・郷土学習（地域への理解と愛着心）とキャリア教育、主体的な協働的探求学習
⇒4年生福祉体験学習、5年生のSDGSの取組、6年生の平和学習の取組
2年生まちたんけんやLaQによる立体地図作り、
3年生の安全マップ作りや地域の歴史を知る学習、5年生環境学習など

保護者の要望を意識した発信の強化

保護者アンケートでは、運動会の表現・ダンスに対する要望が根強く存在していることが感じられた。地域からも注目され分かりやすい行事が、学校の「良さ」や「努力」の指標となりやすいのは仕方ないが、それだけではない学校が目指すものや「鹿小らしさ」を充実させるとともに、この「鹿小らしさ」を保護者に理解していただくよう発信、説明していく努力を続けていく必要がある。一方で、動画や画像によって我が子の姿を見たい、残したいという強い願いを感じるものの学校としてその願いにストレートに応えることの難しさも感じている。

運動会の表現・ダンスを実施しなかったことは、運動会半日開催という時間制限と児童の体力面と健康面を考慮した結果であるが、これによって運動会の練習をよりコンパクトにすることで、生活科や総合的な学習の時間などにおける鹿小らしい授業や取組に力を入れられるようにもなった。来年度は、この「鹿小らしさ」をさらに推し進め、保護者の方や地域の方にも広く知っていただきながら、「自ら学ぶ意欲と豊かな心を持ち、たくましく生きる子どもを育てる」ことをめざし、取り組んでいきたい。

6. 学校関係者評価(学校運営協議会の意見)

<p>①決まりを守る気持ちを育てる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学校としての取組はたいへんよい。続けてほしい。 ○先生がいない時に子どもがはめを外してしまうのは当たり前のこと。できたときに思いっきり褒めてやってほしい。 ○交通マナーに関しては、先生も含めてよくなってきている。 ○放課後にタブレット端末でゲームをしているなど使い方が気になる児童がいる。学校のルールを地域でも把握して足並みを揃えていきたい。
<p>②あいさつ、人を思いやる言動と自己有用感の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○通学路での立哨中、自ら進んで挨拶をする児童が増えた。義務的事務的な挨拶ではなく心からの笑顔で元気な挨拶が多く、登校する児童の表情が明るくなったように感じる。 ○挨拶やルールを守る気持ちは、家庭でのしつけや指導がまず基本であり、家庭と連携して進めていく姿勢は重要。地域も一緒に協力して続けていきたい。 ○暴力行為の低年齢化が心配である。注意して地域でも関わっていきたい。
<p>③多様性への正しい理解のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○取組の内容はとてもすばらしい。続けてほしい。 ○保護者も子どもも忙しく、親子での会話が減っている。他人にべたべた引っついて甘えていく子が増えた。家庭の教育力を充実する取組が必要。 ○不登校児童などの居場所づくりは、これからは欠かせない取組だ。
<p>④児童の問題行動への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○欠員が出る中、よりよく取り組んでいる。 ○担任が一人で抱え込まないように、専科教員を入れるなどして、複数で関わる体制を整えることが必要だ。そのためにも、先生の数が不足することがあってはならない。 ○学校も忙しく、先生たちの帰宅も遅いと聞いている。子どもたちが元気に伸びていくためにも、子どもに接する先生たちが健康で笑顔で元気でないといけない。地域や育友会がそのためにできることは協力していきたい。
<p>⑤授業づくりの改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○意見交流を活発化する取組は今後も続けてほしい。 ○チーム内で、話をたくさんしたがる子中心で話し合いが進むのは良くないので、個人の特性を見て話せない子にも機会が訪れるように促しや配慮が見られるように進めていってほしい。
<p>⑥児童の表現力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○担任の先生によっては、ミニ発表会のような場を設けて発表や自己表出する機会を増やす工夫をしている。 ○総合的な学習の時間などで、運動や勉強以外の分野でも活躍できる場が広がるとよいと思う。
<p>⑦地域連携・協働による活動を実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○鹿小は、イベントや特別な授業が豊富である。継続して行ってほしい。 ○鹿小が取り組んでいることを、いろいろな人に聞いてもらいたいし知ってほしいと思った。
<p>⑧教職員のICT活用能力を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレット端末の利用について、学校のルールを地域でも共有したい。 ○タブレット端末を全員が持ち活用できていることがよい。ゲームをしたいために、キーボード入力やローマ字を習得するために、子どもが技能を伸ばそうとする場合もある。活用の範囲を広げてやることも大切で、その場合は、親のコントロールや管理が不可欠である。

7. 来年度に残された課題

今年度の学校評価をもとに、来年度、引き続き取り組む重点課題は以下の通りとする。

(1). 多様性への理解と規範意識の向上

①決まりを守り、優しい気持ちの醸成と自己有用感を高める取組の推進

- ・規則を守る気持ち、善悪への判断力、正義感を育てる道徳教育
- ・あいさつなどの関わりを通して人と人がつながる取組
- ・自分らしさに気づき、自己肯定感や自己有用感を高める取組
- ・家庭と連携したICTモラル教育

②多様性への理解や自分らしさを発見し互いに尊重しあう態度の育成

- ・障害や不登校、外国籍、LGBTQ等の多様性の正しい理解と支援
- ・不登校児童等の居場所づくり

③問題行動への組織的な対応

- ・問題行動等の情報を共有し、学校全体で対応できる体制づくり
- ・保護者やSC、SSW、サポートセンター等との連携

(2)主体的・対話的で深い学びの推進

④児童が主体的に協働して学び、考えを広げ深める学習の推進

- ・授業中の児童同士の意見交流を通して、考えを深める授業づくり
- ・書いて表現し説明する意欲と表現力の育成、発信する場の充実

⑤地域と連携した郷土学習やキャリア教育の推進

(3)保護者、地域から信頼される学校づくり

- ・「鹿小らしさ」についての共有と取組の推進
- ・学校運営協議会、地域、保護者との連携